

事業の形態

実施主体

委託先

本別町

本別町在宅介護者を支える会

- 支援員の養成
- コーディネーターの配置

連携

訪問活動
の実施

利用ケースの紹介

介護者のストレス増大、在宅生活が困難！？

背景

- 要介護1、痴呆度Ⅱb
- 高齢者夫婦世帯
- 通所サービスの中止
- 介護者が本人を叱る

支援内容

- 週1回の訪問介護(調理)
- 半日、時には1日の支援
- 話し相手、見守り
排せつ誘導
- 介護者は外出(息きぬき
趣味の時間)

- 介護家族の負担軽減
- 本人の安心
- あらたな本人像の発見

在宅生活
の
継続

事業の効果

家族

- 介護からの開放
- 学び・気づきの機会

本人

- 安心
- 楽しく穏やかな時間
- 意欲の向上

インフォーマルサービスの力量形成

本別町やすらぎ支援員



平成34年度

ものわすれ地域
ネットワークづくりへ

～住みなれた地域で

暮らし続けるために～

地域に期待される生活支援活動

地域ケア研究会

認知症に対する理解に基づいた

見守り

なじみの関係の中での生活

15年度以降、社会福祉協議会の事業である「ものわすれ地域ネットワーク事業」において具体的化

ものわすれ地域ネットワーク事業

社会福祉協議会

地域福祉活動コーディネーターの配置

モデル自治会の選定

地域支援を総合的・一体的に実践

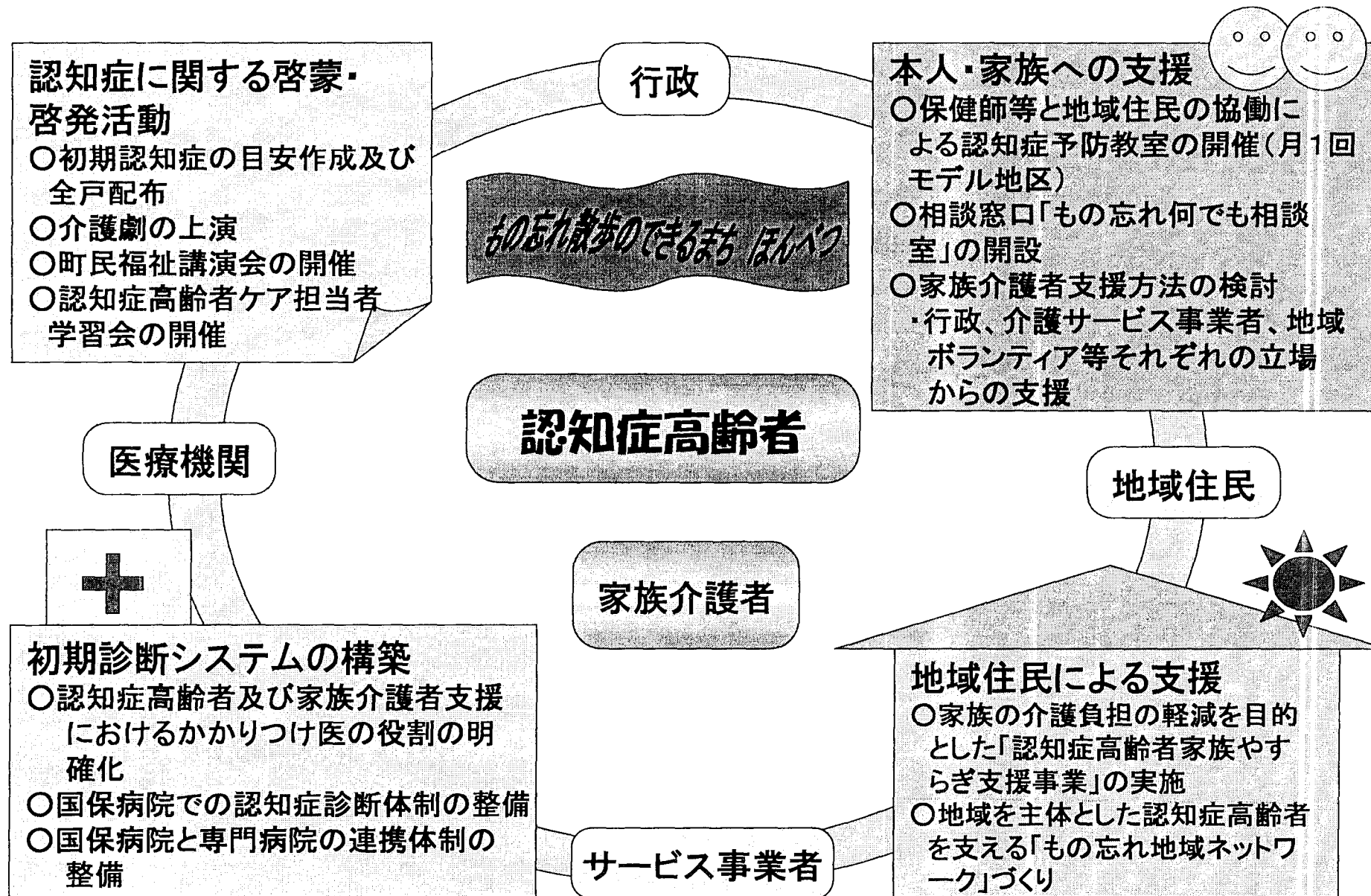
○支え合いマップづくりの推進

地域活動の実態把握、資源発掘、動き方の指針、課題発生 of 仕組み

○認知症予防教室との連携

○認知症に関する学習 等

本別町認知症高齢者支援システム



事業の効果

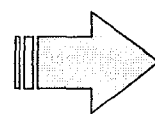
連携の重要性の再確認

協働事業による人のネットワーク化

地域住民の力量形成・向上

問題意識の変化

医療・福祉の問題



地域も含めた問題

今後の方向性

これまでの継続事業の充実、拡大

ものわすれ地域ネットワークの構築と実践

初期診断体制の充実とケア担当者の連携の強化

権利擁護施策利用にむけた体制づくり

施設ケアの充実、地域の連携